

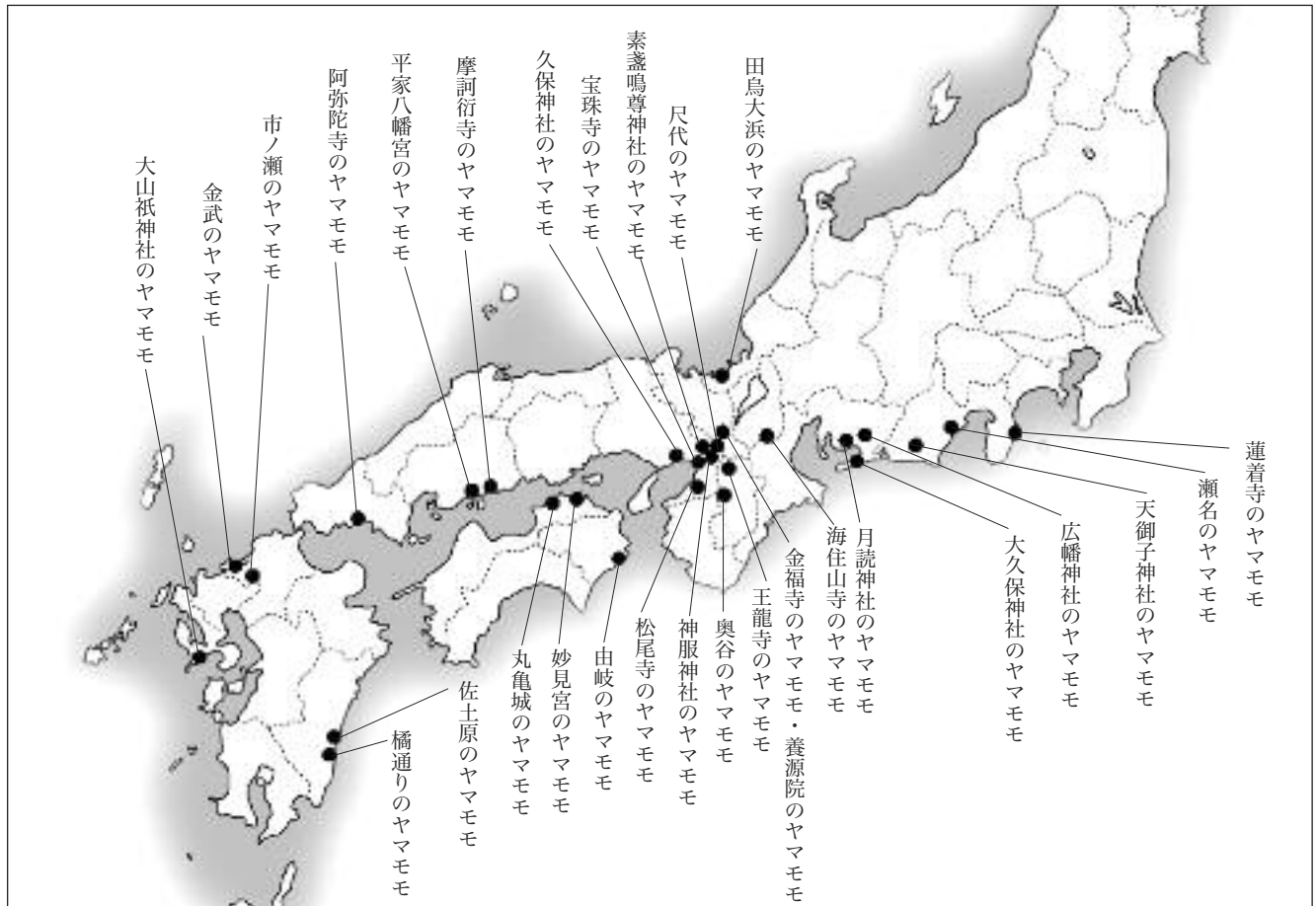
16, ヤマモモ科の巨木 Myricaceae

A ヤマモモの巨木

16-A ヤマモモ(山桃)の巨木

ヤマモモ科ヤマモモ属 *Myrica rubra*

※暖地の山地に生える雌雄異株の常緑高木。雌株に直径1~2㍍の熟すと赤くなる実が夏になり、食べられる。巨木が多く報告されているが、多くは根元分岐幹になる。その中でも蓮着寺のヤマモモは別格な大きさである。



■ヤマモモの巨木評価基準

- A 幹周 7m 以上の単幹樹、同等評価の分岐幹樹、樹形壮大なヤマモモの巨木。
- B 幹周おおむね 5~7m の単幹樹、同等評価の分岐幹樹のヤマモモの巨木。
- C B 評価以下のヤマモモの巨木。

■の主なヤマモモの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	蓮着寺のヤマモモ 写真 Y-001	株 M7.3m(0.5m 2010)	15m	静岡県伊東市富戸 835	国
B	宇佐八幡宮のヤマモモ 写真 Y-002	6.0m	18m	愛媛県西条市河原津	なし
B	海住山寺のヤマモモ 写真 Y-003	5.8m	12m	京都府木津川市加茂町例幣	なし
B	大山祇神社のヤマモモ 写真 Y-004	5.8m	20m	長崎県長崎市北浦町	なし

評価	名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物 指定
B	大久保神社のヤマモモ 写真 Y-005	5.9m	16.5m	愛知県田原市大久保町	市
B	由岐のヤマモモ 写真 Y-006	M4.98m(0.4m 2012)	18m	徳島県海部郡美波町西の地志和岐	
B	金武のヤマモモ 写真 Y-007	M4.6m(0.5m)	15m	福岡県福岡市西区大字金武	県
B	保久良神社のヤマモモ 写真 Y-008	4.05m	12m	兵庫県神戸市東灘区本山町北畑	市
B	天御子神社のヤマモモ 写真 Y-009	4.4m	16m	静岡県磐田市見付	市
B	奥谷のヤマモモ 写真 Y-010	株 5.4m(0.3m)	15m	奈良県五條市西吉野町奥谷	県
B	瀬名のヤマモモ 写真 Y-011	株 5.5m(0.3m)	10m	静岡県静岡市葵区瀬名山崎邸	なし
B	尺代のヤマモモ 写真 Y-012	3.5m(0.3m)	15m	大阪府三島郡島本町大字尺代	府
B	素盞鳴尊神社のヤマモモ 写真 Y-013	4.5m	18m	大阪府箕面市粟生間谷	なし
B	佐土原のヤマモモ 写真 Y-014	M6.2m(分岐 0.3m 2009)	6m	宮崎県宮崎市佐土原町下那珂	なし
C	名堂のヤマモモ 写真 Y-015	株 7.5m(根元 2 分岐)	15m	愛媛県今治市大西町山之内	市
B	市ノ瀬のヤマモモ 写真 Y-016	株 6.0m(2 分岐)	12m	福岡県筑紫郡那珂町市ノ瀬	県
C	阿弥陀寺のヤマモモ 写真 Y-017	4.1m	20m	山口県防府市大字牟礼上坂本	市
C	王龍寺のヤマモモ 写真 Y-018	株 5.0m(0.3m 3 分岐)	11m	奈良県奈良市二名 6-1492	市
C	養源院のヤマモモ 写真 Y-019	4.35m	10.3m	京都市東山区三十三間堂廻り 656	市
C	広幡神社のヤマモモ 写真 Y-020	4.9m	16m	愛知県豊川市御津町西方宮長 31	市
C	摩訶衍寺のヤマモモ 写真 Y-021	株 4.4m(0.5m 根元 3 分岐)	15m	広島県尾道市原田町梶山田 4338	市
C	神服神社のヤマモモ 写真 Y-022	3.42m	18m	大阪府高槻市宮之川原之町 2-25	なし
C	宝珠寺のヤマモモ 写真 Y-023	3.7m	10m	大阪府豊中市熊野町	なし
C	金福寺のヤマモモ 写真 Y-024	3.0m	15m	京都府左京区一乗寺才形町 20	市
C	松尾寺のヤマモモ 写真 Y-025	3.3m	15m	大阪府和泉市松尾寺町	なし
C	田島大浜のヤマモモ 写真 Y-026	株 3.6m(根上り)	8m	福井県小浜市田島大浜	なし
C	月読神社のヤマモモ	3.32m	18m	愛知県蒲郡市平田町西長根 49	なし
C	平家八幡宮のヤマモモ	5.8m(根元 2 分岐 半壊)	15m	広島県三原市中之町 2006	なし
C	丸亀城のヤマモモ(倒木) 写真 Y-027	不明	不明	香川県丸亀市一番丁 赤丸	なし



写真 Y-001

日本一のヤマモモ

蓮着寺のヤマモモ

日本一のヤマモモは、伊豆半島の中程、太平洋に面した蓮着寺境内にある。地上1m程から3分岐する樹形で、各々の幹周が4.2m、3.2m、2.5mという巨大な幹である。蓮着寺のヤマモモは、一本で森を形成するたえのような大きさで、枝張りが東西22mに達する。蓮着寺という寺名も珍しく、この寺は日蓮上人ゆかりの寺で、鎌倉幕府の怒りをかって上人がこの地に流された。その縁地に建てられたこの寺に、日蓮が流れ着いたという寺名を与えたという。

(左写真全景)



写真 Y-002

宇佐八幡宮のヤマモモ

地上2mで大小5分岐し、扇状に枝葉を広げる壮大な樹形。幹周は分岐で広がった部分の測定値で、M5m程と思われるが、このような樹形の巨木は、数字に関係なく巨大感がある。(写真・石田徹)



写真 Y-003▶

海住山寺のヤマモモ

境内の中央辺りの茂みの中に立つ巨大なヤマモモで、一般には通路から木立越しに望むしかないが、見事なヤマモモの巨木である。

(写真・「巨樹・巨木巡礼」)





写真 Y-004
おおやまづみじんじや
大山祇神社のヤマモモ
 (写真・Web 画像)



写真 Y-005
おおくぼじんじや
大久保神社のヤマモモ
 地上1.5mで4分岐する怪樹。幹周は分岐で広がった部分の測定値で、M5m程だが、巨大感には十分にある。
 (写真・Web 画像)



写真 Y-007
かなたけ
金武のヤマモモ
 山林内にあり、1.5mで2分岐する樹形で、大きく枝葉を広げる樹形は、迫力がある。
 (写真・Web 画像)



◀写真 Y-006
ゆき
由岐のヤマモモ
 民家の左手山際に立つ。根元で大小2分岐する樹形。もともと4分岐する巨大な樹冠を形成していたようだ。



◀写真 Y-008
ほくら
保久良神社のヤマモモ
 神社は標高158mの見晴らしのよい高台にある。2m付近で2分岐する樹形。
 (写真・谷田元彦)



◀写真 Y-009
あまみこ
天御子神社のヤマモモ
 本殿後方に立つ。主幹根元から細い側幹が3本斜上する。主幹は堂々として見事である。
 (写真・石田徹)

写真 Y-010▶
おくたに
奥谷のヤマモモ
 株立ちのヤマモモだが、樹形はこんもりとして見事である。小学校の跡地という広場の端に立っている。
 (写真・石田徹)





写真 Y-011
瀬名のヤマモモ

山崎氏宅にあるもので、根元近くで7分岐する樹形。幹周 10.1m と記載のあるものは分岐幹合計周。(写真・Web 画像)



写真 Y-012
尺代のヤマモモ

標高 150m 付近の尾根の頂上近くに立つもので、大きく枝葉を広げる樹形は見事である。(写真・Web 画像)



写真 Y-013
素盞鳴尊神社のヤマモモ

参道石段の左手に立つもので、根上り状になった幹から2分岐する壮大な樹形である。(写真・Web 画像)



写真 Y-014
佐土原のヤマモモ

盛り上がった土盛りの上に立ち、地上 1.2m で大小7分岐する樹形で、連理する幹も見られる。根元に水神様が祀られている。

写真 Y-015▶

名堂のヤマモモ

御堂の後方に立ち、根元で大小2分岐するご神木である。(写真・石田徹)



写真 Y-017
阿弥陀寺のヤマモモ
(写真・「広島県の大樹」)



写真 Y-018
王龍寺のヤマモモ

根元で3分岐し、それぞれの幹が斜上する樹形。(写真・谷田元彦)

写真 Y-016
市ノ瀬のヤマモモ

日吉神社の奥、川縁に立つもので、雌雄株が根元で融合している珍しいヤマモモ。巨木としては少し難があるが、珍木であることからB評価とした。(写真・Web 画像)



写真 Y-019
養源院のヤマモモ

2m で2分岐する樹形で、主幹根元に空洞があるが、樹勢はよい古木である。(写真・谷田元彦)



写真 Y-020
ひろはたじんじや
広幡神社のヤマモモ
本殿の右手に立ち、根元に切り跡があり、痛々しい。(写真・Web 画像)



写真 Y-021
まかえんじ
摩訶衍寺のヤマモモ
根元で3分岐する樹形。
(写真・Web 画像)



写真 Y-022
しんぶくじんじや
神服神社のヤマモモ
(写真・Web 画像)



写真 Y-023
ほうじゆじ
宝珠寺のヤマモモ
(写真・梶本興亜)



写真 Y-024
きんぶくじ
金福寺のヤマモモ
(写真・梶本興亜)



写真 Y-025
まつおでら
松尾寺のヤマモモ
(写真・中川勝弘)

▼写真 Y-026
たがらすおおはま
田島大浜のヤマモモ
根上り樹形。
(写真・「山口県の巨木達」)



▼写真 Y-027
まるがめじよう
倒木・丸亀城のヤマモモ
2010年頃倒木した。(写真・磯野英則)



17, クルミ科の巨木 Juglandaceae

■クルミ科の巨木は以下に分類する。

- A オニグルミの巨木
- B サワグルミの巨木

17-A オニグルミ(鬼胡桃)の巨木

クルミ科クルミ属 *Juglans mandshurica* var. *sieboldiana*

※北海道から九州の山野の川沿い等に生える落葉高木。核果の中の種子は食べられる。よく似たサワグルミは核果ができないことと、幹が垂直に伸びる。オニグルミはよく分岐する。



オニグルミの堅果

サワグルミの果実

■オニグルミの巨木評価基準

- A 幹周おおむね 6m 以上の単幹樹、同等評価のオニグルミの巨木。
- B 幹周おおむね 4~6m の単幹樹、同等評価のオニグルミの巨木。 C B 評価以下のオニグルミの巨木。

■主なオニグルミの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	法光寺のオニグルミ 写真 OK-001	M4.94m(1.3m 2012)	15m	青森県三戸郡南部町法光寺日渡	なし
C	土橋のオニグルミ	4.1m(上部破損)	7m	青森県八戸市大字是川字土橋 12-1	市
C	錦城山のオニグルミ 写真 OK-002	株周 M2.5m(1.3m 2015)	20m	石川県加賀市大聖寺八間道錦町	なし
C	寺平のオニグルミ	3.5m	10m	山梨県甲斐市吉沢寺平	市





写真 OK-001 暫定日本一のオニグルミ

ほうこうじ
法光寺のオニグルミ

地元では日本一のオニグルミとされている。数字の上ではこれを越えるものが現在出ていないが、全国的に個体数の多い樹種であるにもかかわらず、報告例が少な過ぎて判断に躊躇する。今後の調査を待ちたい。



◀写真 OK-002

きんじょうざん
錦城山のオニグルミ

遊歩道の左回り入口上部の斜面に立ち、1.5m 付近で3分岐し、一本は枯死。二本が大きく枝葉を伸ばしている。

17-B サワグルミ(沢胡桃)の巨木

クルミ科サワグルミ属 *Pterocarya rhoifolia*

※北海道から九州までの山地の谷筋に生える落葉高木。葉はオニグルミと同じ奇数羽状複葉であるが、オニグルミの実が丸い、わゆるクルミの実であるのに対して、サワグルミの実は垂れ下がり、区別できる。巨木の多くは分岐幹の集合体で、幹は垂直に立上がり、一見カツラの巨木に似る。葉を見ると違いが見える。

■サワグルミの巨木評価基準

- A 株周おおむね 10m 以上のサワグルミの巨木。
- B 株周おおむね 6~10m のサワグルミの巨木。
- C B 評価以下のサワグルミの巨木。

■主なサワグルミの巨木

2015 年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
B	刀利のサワグルミ 写真 SK-001	株 M8.2m(1.3m 2010)	25m	富山県南砺市刀利字大平	なし
B	不動沢のサワグルミ 写真 SK-002	株 7.6m	40m	山形県山形市上宝沢	なし
B	迷岳のサワグルミ 写真 SK-003	株 6.9m	25m	三重県松阪市飯高町森	なし
B	口ワサビ谷のサワグルミ 写真 SK-004	5.65m	27m	三重県松阪市飯高町森	なし
B	石柵山のサワグルミ 写真 SK-005	株 6.85m	25m	神奈川県足柄上郡北町	なし
C	大無雁のサワグルミ 写真 SK-006	株 7.5m(0.3m 2010)	18m	岐阜県飛騨市宮川町大無雁	市
C	野手上山のサワグルミ 写真 SK-007	6.2m	30m	福島県相馬郡飯館村小宮	なし
枯死	金満神社のサワグルミ 写真 SK-008	4.3m	28m	石川県白山市河内	なし



写真 SK-001

日本一のサワグルミ

刀利のサワグルミ

巨木DBのサワグルミは90件近く、その最大は岐阜県飛騨市「大無雁のサワグルミ」幹周11.0mという巨大なものである。現地調査でこのサワグルミは根元で4分岐し、それぞれの幹周合計値であることが判明した。M式では株周7.5m(0.3m)である。完全に幹が根元で分離しているので巨大感はない。9~10m台の報告はなく、次に富山県福光町「刀利のサワグルミ」幹周8.1mは、その存在が不明であった。

2010年5月、ひょんなことからおおよその場所の特定ができ、調査した。石川県と富山県の県境にある刀利ダムの手前の分岐路を富山県側のダム湖に沿って進み、途中富山県青年の山に登る林道がある。かつて研修館があった跡地の広場は今は単に整地された運動場のような場所で、さらに100m程進むと小屋がある。その右手の小さな沢沿いに踏み分け道があり、進むと前方にサワグルミの先端が見える。急な沢の斜面に立ち、大小8本の株立ちで、主幹は幹周3m程の太いもの。一見カツラの巨木のように見えるが、葉を観察すると羽状に切れ込み、クルミであることがわかる。早速幹周を測定すると、報告値に近い株周M8.2m。株立ちだが、お互いに癒着する部分が多く、巨大感があるため日本一に認定した。

しかし、ほとんどの巨木が山地にある事から、新発見が想定される樹種である事、圧倒的な巨大感が無い事から、B評価相応とした。



写真 SK-003

迷岳のサワグルミ

尾根に立つ株立ちのサワグルミで、手前の主幹部が空洞化している。かつて幹が存在していたものだろう。(写真・Web画像)



写真 SK-004

口ワサビ谷のサワグルミ

サワグルミの巨木では珍しい単幹樹。主幹根元に大きな空洞がある。(写真・Web画像)



▼写真 SK-006

大無雁のサワグルミ

国道沿いの沢の傍らに立ち、根元で4分岐している。

写真 SK-002

不動滝のサワグルミ

不動滝への登山道入口から滝までの中間地点に立つ株立ちの巨木。(写真・Web画像)

▼写真 SK-005

石棚山のサワグルミ

石棚山の尾根に立つ株立ちのサワグルミの巨木。(写真・Web画像)



▼写真 SK-007

野手上山のサワグルミ

(写真・Web画像)

